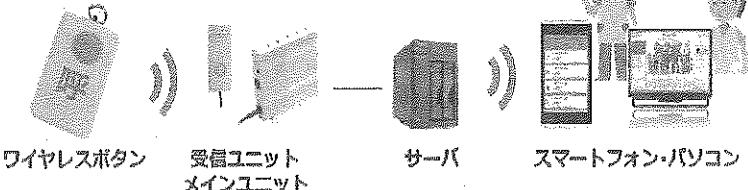


ワイヤレス 入れ替え需要で好調 ナースコール

システムの流れ



ワイヤレスナースコールシステム概略図

出用可能。呼び出しボタンとトイレは、浴室やトイレでも利用可能。呼び出しボタンは、居室用のほか、防滴仕様を施したタイプは、浴室やトイレでも利用可能。



掛川社長

ソフトウエア開発を手掛けるユニティーネットワーク(高崎市東町12番地)、掛川信弘社長☎027-381-540

5)は、介護施設や医療機関向けの「ワイヤレスナースコールシステム」の販売が好調だ。老朽化で不具合の目立つ有線型

ナースコールシステムのリニューアルに伴し、居室内の工事が不要のため、導入経費が大幅に抑えられるばかりで、自由な設置・運用が可能なことが特徴だ。

同システムの基本構成は、サーバと受信ユニット。ワイヤレスの呼び出しボタンは、居室用のほか、防滴仕様を施したタイプは、浴室やトイレでも利用可能。

バイタル(生命兆候)センサーは、非接触で呼吸や脈拍を把握できるもの。マットの下や天井に設置し、バイタルデータ

の異常や離床判定となつた時にアラームを発し、即座に対応する。磁界センサーによる徘徊検知は、出入り口や

見守りネットワークを構成 ユニティーネットワーク

危険区域に磁界センサーと赤外線センサーを設置し、徘徊を見守るシステム。また、コールを知らせるスタッフ用スマートフォンとはWi-FiやBluetoothで通信環境を構築している。

同社では、サーバ・受信ユニット・Wi-Fiルータで構成するインフラを「あんしんの絆」と称し、施設・院内統合見守りネットワークと位置づけ、入居者などの状態や運用形態に合わせ、ほかにも多くのサービスを提供。サーバではそれぞれのシステムの発生、対応の履歴情報などを管理できる。

カメラなどで施設の要望に合わせたサービスの提供を行っている。掛川社長は、「入居者がエリア外に出たことを見守るシステム。このほか、排せつした時に通知を送信するおむつセンサーや人感センサーが、開閉センサー、IP

の状態はそれぞれ。当システムは、状態に合わせた見守りができるのが特徴。施設が要求する利便性を提供し、役に立ちたい」と話している。

(中野博之)